

会員連絡

総会および大会について

五月一九日(土)・二〇日(日)の両日、本学会第五九回総会及び第六六回大会が千葉大学において開催され、参加者は延べ約六五〇名で盛況であった。

本総会における報告及び議決事項は左記の通りである(敬称略)。

議長 挨拶 佐藤和夫
会長 挨拶 野家啓一
一般報告 入江幸男
国際交流活動報告 尾関周二
前年度決算報告 高橋久一郎
会計監査報告 酒井潔・熊野純彦
本年度予算審議 高橋久一郎
編集委員会報告 古茂田宏
若手奨励賞表彰式 受賞者 藤川直也

対象論文「固有名と記述 ウェットスタインの「解消」に抗して」
(なお、佳作として、西村正英「後期ライプニッツの形而上学における
物体の存在論的身分」(英文)が選ばれた。)

一般報告

二〇〇六年度日本哲学会事業報告を既に配布した報告の記載通りに承認した。

会計報告

二〇〇六年度日本哲学会会計報告を既に配布した報告の記載通りに承認した。

二〇〇七年度日本哲学会予算を既に配布した報告の記載通りに承認した。

日本哲学会研究倫理規定をすでに配布した案通りに承認した。

新役員組織について

委員および会計監査

郵送および大会会場での投票による選挙結果にもとづき、次の方々に就任を依頼し承諾を得た。投票者総数は、一二二名であった。辞退者を除く選挙結果は左記の通り。

(開票立会人は、飯田隆、高橋久一郎、山内志朗の各氏)

* 全国区(敬称略)

野家啓一(五六)	飯田隆(三九)	高山守(三〇)	鷺田清一(二八)	伊藤邦武(二七)
北川東子(二六)	清水哲郎(二五)	小林道夫(二二)	牧野英二(二〇)	一ノ瀬正樹(一九)
古茂田宏(一八)	山内廣隆(一七)	尾関周二(一五)	石崎嘉彦(一五)	鹿島徹(一一)
高田純(一一)	岩田靖夫(一一)	岡本由起子(一一)		

* 地方区(敬称略)

北海道地区	新田孝彦(一)	奥谷浩一(一)
東北地区	篠澤和久(五)	座小田豊(三)
関東地区	神崎繁(三)	大橋容一郎(三)
中部地区	金山弥平(六)	服部裕幸(四)
近畿地区	入江幸男(五)	工藤和男(二)
中国・四国地区	石田三千雄(四)	宮坂和男(一)
九州・沖縄地区	種村完司(七)	円谷裕二(三)

六月二三日で開催された第一回委員会において、会長は高山守氏に決定された。

* 会計監査（敬称略）

高橋久一郎（六） 山田弘明（三）

編集委員

第一回委員会において次の会員に編集委員を委嘱した（敬称略）。

伊佐敷隆弘	石田三千雄	石原 孝二	伊藤 邦武	上枝 美典
大越 愛子	岡本由起子	荻野 弘之	柏端 達也	櫻 則章
加藤 泰史	金山 弥平	金子 洋之	川本 隆史	北川 東子
座小田 豊	佐藤 義之	鈴木 泉	須藤 訓任	高田 珠樹
戸田山和久	富田 恭彦	富松 保文	中才 敏郎	檜垣 立哉
別所 良美	望月 太郎	山口 誠一	山口 義久	渡辺 邦夫

六月二三日に開催された第一回委員会において、座小田豊氏が編集委員長に就任することが決定され、七月二日に開催された第一回編集委員会において、その旨が了承された。

幹事および事務局委員

事務局校会員の堀江聡氏が事務局長に、また齊藤慶典、山内志朗各氏が事務局幹事に就任することが決定した。

来年度大会について

開催場所 広島大学

日 時 二〇〇八年五月一七日（土）・一八日（日）の予定

来年度大会は次のように行われる予定である（敬称略）。

第一日目

午前 第一～第三会場 一般研究発表

午後 総会

シンポジウム 「平和・戦争・暴力」

提題者 …………… 交渉中

コメンテーター …………… 交渉中

司会 越智貢・北川東子

第二日目

第一～第三会場（午前および午後） 一般研究発表

特別会場

共同討議 「哲学史を読み直す～イスラム思想の視点から（仮）」

提題者 山内志朗・竹下政孝

司会 清水哲郎

共同討議 「脳科学と心」

提題者 信原幸弘・武田一博

司会 戸田山和久

一般研究発表について

1 応募方法 発表要旨を4に掲げる所定の書式にしたがってプリントアウトし、ホッチキスで留めたもの五部と、

「一般研究発表応募調書」一部を提出すること。

* 郵送用封筒の表に「一般研究発表要旨在中」と明記すること

* 応募した原稿は返却しない。

2 応募締切 二〇〇七年十一月二日（月）必着

3 審査 編集委員会で審査・選考する。結果は二〇〇八年三月ごろに通知する予定。

4 発表要旨書式 B5サイズ三枚以内、横書き、三六字・三五行、フォント一〇ポイント、上余白三〇ミリ、下余白一

五ミリ、左右余白二七ミリ。頁番号はつけないこと。ただし、一頁目のレイアウトは以下のとおり。上部の八行のうち第一行目と第八行目を空行にして、残りの六行のなかに題目、氏名、ふりがな、可能であれば氏名の下に所属機関を収める。題目は「一ポイント中央、副題がある場合には、「一ポイントまたは一〇ポイント中央、氏名は、「一ポイントまたは二ポイント右寄せ。ふりがなは、ルビの体裁でも、氏名の直後に丸括弧のなかに入れてもよい。所属機関は、九ポイント右寄せ、丸括弧に入れる。

*ワードプロセッサの仕様から生じる若干の差異を許容する。

*応募された原稿をそのまま版下として使用するのを、右記書式（レイアウト）を遵守すること。また、インターネット上の学会HPにもこの書式が掲載されている。<http://philosophy-japan.org/>

公募論文について

- 1 論文テーマ 哲学に関するもの。ただし、未公開のものに限る。
- 2 応募資格 当年度会費を納入済みの日本哲学会会員であること。ただし、前年度の『哲学』に公募論文が掲載された者を除く。

- 3 使用言語 日本語、もしくは英語、ドイツ語、フランス語。
以下の形式で応募して下さい。
- 4 原稿分量

・日本語、欧文、いずれの場合も句点、ピリオド等も字句数に数える。
・枚数は厳守のこと。

・**日本語の場合**：本文と注を 四〇字×四〇行でレイアウトして（改行などによるスペースも含めて）一〇枚以内。

・**欧文論文の場合**：本文と注を含め六〇〇語以内。日本語の全訳（もしくはパラグラフの順序に忠実な要約）を付すこと。

- 5 欧文要旨 日本語、欧文論文とともに、三〇〇語程度の欧文要旨（英・独・仏語のいずれか）とその日本語訳を作成すること。

- 6 提出物 以下の要領でそれぞれものを必要部数揃えること。
・原稿はA4判用紙に左記の要領で印刷して下さい。応募原稿には、氏名、ふりがな、所属機関名を明記のこと。

・**日本語の場合**：一頁四〇字×四〇行で印字したものを五部（本文と注は同じポイントで）。

・**欧文論文の場合**：特に印字の指定はありませんが、その日本語訳は同じく一頁四〇字×四〇行で印字し、欧文論文とその日本語訳をそれぞれ五部。

・欧文要旨とその日本語訳を各五部。

・「応募論文調書」を一部調書の書式はHPにも掲載しています。

*(注1) 原稿ファイル、欧文要旨、応募論文調書の三つを添付ファイルとしてEメールで

日本哲学会事務局(nitetu@phil.net.keio.ac.jp)まで送ること。

*(注2) 欧文論文の場合、ネイティブ・チェックをあらかじめ受けるものとします。ネイティブ・チェックによる、チェック済の証明書と、そのチェックの経歴書（ともに書式自由）各一部を添えること。

- 7 提出要領 以上を揃えた上で、封筒の表に「公募論文原稿在中」と明記の上、日本哲学会事務局宛に郵送のこと。
(なお、提出された原稿は返却してありません。)

- 8 応募締め切り 随時提出することができます。『哲学』次号掲載のための締め切り目安は六月末ですが、その期日内に提出された論文であっても、採用された論文の数が多い場合や、書き直し等により審査に日数を要する場合など、次々号以降に掲載が延期されることもあり得ます。

- 9 審査 編集委員会の責任において審査・選考します。審査の過程で問題点を応募者に指摘し、書き直しの要求する場合があります。また、不採用になったものについても、その結果と理由を通知しております。なお、かつて「不採用」と判定された応募者が、新たに論文を投稿し、この新規投稿論文が旧論文とほぼ同内容と判断された場合は、「不採用」となります。

その他

『日本哲学会会員名簿』を同封致します。

会費納入のお願い

会費をお納め下さい。会費は年六千円です。会費年度は三月一日から二月末までとなっています。未納分の合計は封筒の宛名ラベルの右下に表示しております(金額がゼロ、またはマイナス符号がついている場合は、入金超過ですので、お支払いになる必要はありません)。なお、納入会費額は二〇〇七年七月の資料に基づいております。行き違いの節はご容赦下さい(会費四年以上未納の会員には、『哲學』の送付を停止しております)。領収証は郵便振替用紙の払込票をもってかえさせていただきます。

自然退会について

日本哲学会では、会費未納期間が九年以上の会員の方については、自然退会として処理します。ただし、会費が四年以上未納となり雑誌『哲學』の送付を停止した後も、退会届が未提出である場合には、引き続き会員として登録しており、会費も請求しております。また、退会申請者で会費未納分のある方や、自然退会となった方についても、『哲學』送付期間の未納分の会費は納付いただくように求めております。

日中交流の成果が本として今秋出版される予定です。

連絡は郵便またはe-mailでお願いいたします。

慶應大学文学部内 日本哲学会事務局 〒一〇八・八三四五 東京都港区三田二・二五四五

電子メール : nitetu@phil.net.keio.ac.jp

電話: 090-3802-5114 (但し、水・金一時から四時まで)

以上

二〇〇七年七月三十一日

日本哲学会事務局

会 員 各 位